

表2 供物としての納豆

供え先*	地区**	日付	記述(資料***)
歳徳神	1. 岩手県江刺市稲瀬	12/25	「正月用の納豆を作る習慣は村々にあった。それを節納豆と呼び、江刺市稲瀬では二本(閏年は十三本)作る。旧十二月二十五日に寝せるが、年神さまにあげるものは寝せる前に苞に小さな藁の皿結びを入れておく。空になった苞の藁はほかの藁とは区別し、打って保存し、田植えのときこれを苗のタワバタ(苗を束にして結わえる藁)として使えば、作がよいとか、虫がつかぬとかいう。」(歳1 p.82)
	2. 岩手県水沢市	12/31	「この夜年棚に上げる納豆の苞はほかの苞よりも大きく作り、上を輪に結んで吊るした。」(歳1 p.83)
	3. 宮城県栗原郡金成町長根	12/31	「年取りの膳 皿は赤魚の焼き魚、鱈の吸い物、数の子・鮑・牛蒡・人参・芋などのお平、お汁は豆腐にタヅクリ、それに納豆を供える。」(歳1 p.142)
	4. 福島県耶麻郡西会津町大字奥川宇彌平四郎	12/25	「納豆年越し。正月用の納豆をつくり、神に供える。」(民 p.135)
大黒天	5. 山形県最上郡大蔵村大字南山字肘折	12/9 (旧)	「大黒様。マッカ大根を神棚にあげ、できるだけの料理を供える。昔は100品供えたというが最近では47品供える。納豆は10品、豆腐は10品と数える。」(民 p.121)
恵比寿天	6. 新潟県十日町市鉢	12/23 頃	「納豆ねせ。納豆は正月のサイガシラといって昔は必ずつくって、えびす様にあげた。」(民 p.244)
	7. 山形県西置賜郡飯豊町中津川	12/27	「正月がちかづくとな豆をねせる。西置賜郡飯豊町中津川では「節納豆は二人でねせる」といい、一人ですると納豆用に煮た豆がマガル(でき損じる)という。ここでは暮れの二十七日が納豆の口あけで、えびす棚にそなえてから食べる。」(民山 p.224)
山の神	8. 福島県西白河郡表郷村大字金山	1/6	「山入れ。山へ行き、餅・納豆・塩などを供え、幣束を立て山の神を祭り、柴を1束くらいきって背負ってくる。」(民 p.133)
	9. 栃木県河内郡南河内村寺薬師寺	1/6	「山入り。米・塩・さかな・餅・納豆を供える。」(民 p.157)
祖先	10. 福島県喜多方市岩月町入田付	3月	「正月の餅は径1尺ぐらいにのぼして凍らせ、彼岸に焼いて納豆で供える。」(民 p.134)
御霊 (みたま)	11. 宮城県全域	12/31	「年取りの夜、オミタマサマといって、一・二個(閏年には一・三個)の握り飯に、特定の木で作った箸を一本ずつ立て、箕の上に干柿・納豆・昆布とともに載せ、棚の上や仏壇に供える。」(歳1 p.141)
	12. 宮城県全域、気仙沼市鹿折、宮城県宮城町赤生木	12/31	年越しの夜、オミタマサマ(お御霊さま)をまつり、正月にお供えする習俗がほぼ全県下にみられる。気仙沼市鹿折では、箕の上に新仏の位牌と線香をのせ、一・二個の餅(閏年には一・三個)と干し柿・みかんを備えて仏壇の側に置く。餅の代わりに握り飯を並べ、セリ・昆布・納豆をふりかけ、箸を一本ずつさして、仏壇の前に供えるところもあり、また宮城県宮城町赤生木では元旦にオミタマサマの箕の口を明きの方にむけなおすならわしである。(民宮 p.203-204)
	13. 宮城県柴田郡村田町、桃生郡成瀬町浅井	1/2,3	柴田郡村田町などでは、箕に鏡餅をいれてオミタマサマ(お御霊さま)として、かまどの上に供え、二日に下げて鏡割りし、三日の朝焼いて食べる。ミタマナットウ(御霊納豆)と称して、特に納豆をつくり、賽の目に編んだ餅にかけて供えるところもある(桃生郡成瀬町浅井)。(民宮 p.204)
	14. 山形県上市市高松	12/31	「年越し。神棚のすすを払い、お膳を供える。明けの方に年徳神を祭り、オミダマにクヤ棒をさし、ゆずりには納豆を添えて供える。そして静かに除夜の鐘を聞き、いろりの火を絶やさず正月を迎える。」(民 p.118)
	15. 山形県置賜地方	12/31	「オミダマを供えるとき、朴の木の葉のなかに納豆・布海苔・昆布・切餅、それに塩を包んで一緒に供えるが、この朴の木の葉に包んだものは囲炉裏の上に上げておき、苗代に蒔く。」(歳1 p.237)

* 年徳神、年神、歳神、正月さまは、歳徳神に統一した。

** 書籍出版時の地名であり、現在では合併して示した地名が残されていない場合もある。

*** 民：文化庁編(1971)『日本民俗地図Ⅱ 年中行事Ⅱ』国土地理協会。

歳1：三浦貞栄治・森口多理・三崎一夫・今村泰子・月光嘉弘・和田文夫(1975)『東北の歳時習俗』明玄書房。

歳2：藤本良致・漆間元三・橋本芳契・佐久間惇一(1975)『北中部の歳時習俗』明玄書房。

民宮：竹内利美(1974)『日本の民俗 宮城』第一法規出版。

民山：戸川安章(1973)『日本の民俗 山形』第一法規出版。

『日本民俗地図Ⅱ 年中行事Ⅱ』のデータは1962(昭和37)年度から1964(昭和39)年度に調査が実施されたものとされる。『東北の歳時習俗』のデータの調査時期は不明だが、出版された1970(昭和50)年あたりの情報が多いと思われる。『日本の民俗 宮城』は1975年出版当時に残っていた行事のデータである。